

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>事業所独特の理念を作り上げている。美園らしい理念を話し合いの元、作成している</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念をエレベータ前に掲げ、共有のもと仕事に取り組んでいる。朝のミーティング後、スタッフ一同で唱和し、常に意識しながら勤務をしている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>理念をエレベータ前に掲げている。</p>	○	<p>理念はエレベータ前に掲示しており、来客時には必ず目に付きやすいが、地域等の方々には説明不足。今後、地域などの説明など行っていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近くの公園に散歩に出た時、お店に立ち寄った時等、会話をしている。</p>		<p>決まった所にしかでないので、より一層、ご近所との交流を深められるようにしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域での町内会行事に参加している</p>		<p>町内会行事など、さらに詳しく調べ、積極的に取り組んでいきたい</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>入居相談や介護の相談など行っている。</p>	○	<p>地域の高齢者が気軽に立ち寄り、入居者とともに出来ることを、もっと模索し取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受けるにあたり、仕事に対しての意識向上、ひいては入居者様達へのサービス向上につながると理解している。	○	評価に対し、全スタッフで話し合い改善していきたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な実施は行われていない。	○	ご近所やお店などの個々の人たちとの付き合いがあるが、地域全体との話し合いが少なく感じられる。もっと話し合える場など増やしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の管理者運営会議などに参加している。		今後も積極的に参加し情報交換を行い、質の向上に取り組めるように努めていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会は外部研修でもっているが、必要性の話し合いはもたれていない。	○	外部研修で学んできたスタッフが、受けていないスタッフに教えていくとともに、必要な人には活用できるようにしていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	毎月の抑制廃止委員会にて、抑制はないか、虐待はないか話し合われ、防止に努めている。入浴時のボディチェックを行っている。		今後も抑制委員会等、スタッフ間の連携をとり、防止と、そこにつながらない職場環境作り等にも取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時には大まかな説明はしており、契約時には契約書、重要事項説明書を本人やご家族と一緒に読み合わせ、ご理解や納得をしていただき、その上で、署名と捺印を頂いている。説明時には気軽に質問していただけるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>1対1で、ゆっくり話せる場面作りをしている。苦情箱や苦情委員会を設置している。苦情が出た場合は申し送り時などに全職員に周知させ、会議で話しあい改善に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、かわら版を発行しコメントを載せている。受診時等、変化があった場合は電話連絡を入れている。</p>	○	<p>特変時だけではなく、おだやかにすごされている時でも、定期的に管理者より電話報告をしていきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族への郵便物発送時の手紙や、面会時には、意見等あればと、お伺いしている。意見、不満、苦情は会議を利用して職員に伝え話し合い、その結果をご家族に伝えるようにしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ユニット会議や合同会議時に、機会を作っている。</p>	○	<p>日常的にも意見が出やすいように環境作り(朝・夕のミーティング時等)をするようにしていきたい。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ケアカンファレンスの時間を設け話し合いを行い、必要な場合の勤務調整も行っている。入居者の状況で変化が見られた場合は、勤務時間の延長やシフト調整を行っている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職場移動の際は、入居者が話したい時に電話で話す機会を作っている。離職する場合は、最低でも1ヶ月の期間を設けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	順次、研修の機会を設けている。様々な研修案内を回覧し、参加希望のスタッフには参加の機会を作っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会への参加。	○	研修会、講習会等に積極的に参加していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩をとれるように声のかけあいをしている。希望休の考慮をしている。		些細なことでも話し合える体制作りをしている。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	給与の査定制度を設けている。職員の個々の努力や実績など、管理者が運営者に伝えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前のアセスメント時、それらのことを聞き出し、全職員に周知できるようにしている。入居当初も引き続き、話を聞き対応している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前のアセスメント時、それらのことを聞き出し、全職員に周知できるようにしている。希望なら、見学は1度ではなく、納得いくまで来ていただき、話をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人やご家族の状況から、何が必要か見極め話し合い、必要であれば他のサービス利用もすすめている。	○	他のサービスにどんなものがあるか、把握しておきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	その入居者の状況に合わせた柔軟な対応を、ご家族と一緒に相談しながら取り入れている。入居当初は慣れていたことを第一に考えている。入居前にはご家族と共に何回かホームに足を運んでいただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に出来ることは、して頂き、話をしながら共に過ごし、支えあう関係を築くよう接している	○	入居者と信頼関係を築けるようにしていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な通信や電話により、ご本人の状況を共有し、共に支えていく関係を築くよう努力をしている。ホーム行事も参加していただけるように、声をかけている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にはホームでの生活の様子を些細な事でも伝えるようにしている。又、行事の参加の呼びかけをし、本人と家族が楽しい時間を過ごせるようにしている。面会に来られないご家族には、電話や手紙で近況報告をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人やご家族から、馴染みの人や場所等を聞き出している。	○	入居者様達のなじみの場所や人を、聞き出したあとの対応が出来ていないので、電話や、その場所に行くなどしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブルがおきないように配慮をしている。孤立しそうな時は職員が間に入り橋渡しをしている。会話がはずむような席の配置をしている。	○	全員で楽しめるレクリエーションを勉強し提供していきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何かあれば気軽に連絡いただけるように話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1対1にて話しやすい環境の中、希望を聞いている。職員全員が日々のケアの中、本人の思いを受け止めるように努力している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	話を聞き、生活史ノートに残し、新たな情報も書き足しを行っている。		ご家族にセンター方式から抜粋したアンケートの協力をしていただいてい
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録を把握し、自分の目と耳からも入居者の現状を把握するようにしている。	○	記入漏れがあることも見られるので、再度徹底し、全職員が状況把握できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時は情報を収集し、ご本人の意向も取り入れ、カンファレンスにて話し合いプラン作成をしている。	○	本人の意向と共に、ご家族の意向も含めた介護計画の作成に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ケースカンファレンス日を決め、3ヶ月ごとに見直している。変化がおきた場合は緊急カンファレンスを開いている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録を朝・夕の申し送り時にて共有し、日課やプランに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望は、その都度ご本人の状況に合わせて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防訓練を行っている。	○	趣味の合う地域住民ボランティアの受け入れをしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は行っていない。	○	他グループホームとの交流会をしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は行っていない。	○	必要な場合においては、地域包括支援センターと協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診があり、健康管理がなされ、結果については、特変があれば家族連絡を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医との関わりはないが、かかりつけ医との相談、連携はとれている。	○	認知症専門医に受診できるような体勢作りをしていきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の確保はなされていない	○	地域包括支援センターの看護師と連携をとりアドバイスを受けていきたい
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時はお見舞いもかね、情報収集に行き連携をとっている		入院時はお見舞いもかね、情報収集に行き連携をとっている
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在は行っていない。	○	すべての入居者達と、機会を作り、方針を共有していきたい
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	全スタッフで話し合い、医師との連携をとることを心がけている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時は、本人やご家族から情報を収集し、また、他のサービスを利用している場合はその関係者から情報を提供していただいている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>抑制廃止委員会や会議でも取り上げ全スタッフに対応の共有をしている。秘密保持義務を徹底するよう努めている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何かを行う場合、声かけ確認をし、何をしたいか、したくないかを聞き取り、本人の思う生活が出来るよう取り組んでいる。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務優先にならない事を頭に入れ行動し、一人一人に合わせた支援をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その日の体調や気分、気候に合わせて、職員とともに行われている。定期的にヘアカットが行われている。</p>	○	本人の望む美容室へ出かけて行きたい。
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>準備、片付けは一緒に行っている。</p>	○	食べたいものを聞いて、一緒に作りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは好きなきに吸える環境がある。体重増加に気をつけるよう、Dr指示があるかたについては、おやつ等、少なめに提供している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	パットに失禁が見られるようなら、早めのトイレ対応を心がけている。各々のサイクルに合わせた排泄パターンを把握し声掛けを行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は基本曜日と時間が決まっている。	○	入用日と時間が決まっているので、本人の希望を聞いて好きな時間に入れるようにしていきたい
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の希望時、傾眠がちな時等は、居室で休んで頂き、居間にはソファでくつろげる空間を作っている。夜間、良眠ができるように、日中は一人一人の生活習慣を把握して活動できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	やりたいこと、好きなことを把握し、ケアプランや介護手順書に落としこんでいる。	○	より、一人一人にそくした細かい支援ができるようにしていきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物と一緒にいき、支払いを行ってもらっている。本人管理も数名いる。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	随時、外出の声掛けを行い、それぞれの要望に合わせて行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	定期的に行事レクとして企画を立て、ご本人の希望を聞きながら外出の機会を作っている。行事によっては家族が参加していただけるよう案内をしている。また、天気の良い日には車で近くの公園へ出かけている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	絵手紙を作成し家族へ出している。電話については、好きなときにかけられるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	何かの行事の際は家族にも知らせ、一緒に参加の誘いかけをしている		面会時は居室で落ち着いて話せるように努めている
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	抑制廃止委員会を開き、会議録にて全スタッフが情報共有している。	○	勉強会や研修を重ね理解を深めていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵の使用はない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、所在や様子を安全に配慮するよう心がけている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬は薬棚に保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	避難訓練や転倒防止等、会議や内部研修で取り上げ、防止の意識を高めるよう取り組んでいる。誤薬に関しては、薬セット時、名前と日付を確認し飲み込みまで確認している。与薬後の薬の空袋を違う職員がチェックしている。	○	一人一人の性格や状態から、行動を予測し事故に繋がらないように危険防止の取り組みを徹底するように努めたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	内部研修等で取り上げている。マニュアルの作成をしている。	○	消防団をよび、講習を行いたい。搬送の訓練を日常的に行いたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災委員会を設置し、昼間の訓練は行っているが、夜の避難訓練は行っていない。	○	消防団による避難訓練時、地域の人もよび、グループホームの理解を深め協力体制を作りたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	施錠、居室扉の開閉の自由。	○	一人一人のリスクを深く考え、スタッフ共有のもと、対応策を家族とともに考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	異変時は管理者に報告し、記録に残し、情報を共有し、対応するように努めている。朝・夕のバイタル測定を行い、介護記録に記録し、申し送りしている。夜間、休日等の対応病院がある。	○	気づきの共有はできているが、対応の知識が必要
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報はノートに書き留め、何かの際は、薬剤師やかかりつけ医に相談のもとと薬している。複数の職員にて誤薬のないよう確認に努めている。	○	職員が薬についての知識を深める必要がある
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	歩行や体操を促し、トイレ時は腹部マッサージを行っている。排便確認を行い、排便を促すための飲食物の工夫をしている。	○	便秘に関する勉強会を開きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立者には声かけ、介助が必要な方には介助しながら、1日3回行っている。口腔内の痛みや腫れ等の確認。舌も磨くよう声かけ。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	Dr指示による食べ過ぎ注意者には少なめの食事提供をしている。食事量、水分量をチェックし摂取を促している。	○	カロリー制限、塩分制限メニューを製作中。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設置し、取り決めの周知をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	物品は塩素系にて消毒を行い、食材に関しては、随時買い物を行い新鮮な物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	鉢植え等を置き、あたたかい雰囲気を出している。	○	今後も菜園を行っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある装飾を行っている。	○	行事や普段の風景写真を定期的に張り替えて、楽しんでいただきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話スペースを設けている。席の配置などに気を配っている。居住空間のスペースから、なかなか居室以外に一人でくつろげるスペース確保が難しいが、レイアウトなど考慮し空間作りをしている。		居住空間のスペースから、なかなか居室以外に一人でくつろげるスペース確保が難しいが、レイアウトなど考慮し空間作りをしていきたい
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみの写真等を飾っている。家具等も持ち込み使用されている。	○	まだ持ち込みされていないもので、本人がよく話しに出てくるものに関して、家族と話し持ち込み可能なものは持ってきていただく。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気清浄機の使用とともに、窓からの換気も行っている。各々の体調にあわせ、温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	障害物のない廊下や居間の環境作りをしている。トイレ、廊下、浴室には手摺を設置している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱するような場面を作らないよう配慮している。一人一人の能力を生かし、出来る事はやって頂く様に支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターを置き、成長をみながら水やりを行ってる。	○	プランター等、もっと充実させていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)